

第 2 次大阪市子ども読書活動推進計画(概要)

取組み・成果

乳幼児期

- ・子育て支援施設でのブックスタート事業実施により、施設利用者が増加
- ・子育て支援のネットワークと図書館の連携が拡充し、子育て支援施設での読み聞かせなど読書活動が拡大

学 校

- ・全小・中学校で「朝の読書」などの一斉読書の取組みを実施
- ・全小学校で「学校図書館活性化事業」を実施し、開館回数が増加
- ・中学校で「学校元気アップ地域本部事業」により、実施校では「全く読まない」生徒が減少(平成 25 年度全校実施予定)
- ・学校図書館で活動するボランティアが増え、学校図書館の活性化が進む
- ・12 学級以上の学校に司書教諭を配置し、スキルアップ講習を実施

図 書 館

- ・調べ学習などに使用する図書の団体貸出等、学校と市立図書館の連携が拡充
- ・児童書の充実、子ども向け事業の拡大等により、児童書の貸出冊数が増大
- ・読書離れが進む 13～19 歳に向けホームページ上に「ティーンズのページ」新設

学校、家庭、地域、図書館の 連携・協力

- ・ボランティアグループの代表、区役所や子育て支援施設職員、教員等が参加し、子どもの読書活動について情報交換を行い、連携・協力が進む

今後の取組み

- ・「ブックスタート事業」について、各区の実情を踏まえた実施方法を検討する
- ・子育て支援施設での読み聞かせ等を継続し、保護者と子どもが身近に本に親しめる場を提供する
- ・学校図書館を計画的に活用して、読解力や記述力を培い、言語力の向上を目指す
- ・学校と市立図書館の連携を拡充し、学校の ICT 環境に合わせた図書館サービスの活用を検討する
- ・市立図書館は、さまざまなニーズに対応し、子どもが読書を楽しめる環境づくりに努める
- ・「図書館活用の手引き」に「ティーンズのページ」や電子書籍等新しいサービスを紹介し、中・高等学校での市立図書館サービスの活用を図る
- ・市立図書館でボランティア講座を継続実施し、様々な場で活動するボランティアの交流を拡大
- ・各区、大阪市全体「子どもの読書活動推進連絡会」を開催し、様々な立場で子どもの読書活動推進にかかわる施設・人をつなぎ、連携・協力の拡充を目指す

課 題

- ・ブックスタート事業参加者数の伸び悩み
- ・「読書が好き」と答える児童・生徒の数が少しずつ増えてきたが、全国との差が大きい
- ・昼休みや放課後、休みの日に図書館を利用する頻度が全国平均に比べ低い
- ・7～12 歳の市立図書館の利用は増加しているが、13～19 歳では減少しており、読書習慣の定着に課題
- ・ボランティアの継続や人数確保に課題がある学校がある

指 標

- ・子育て支援施設での読み聞かせ 97 か所⇒105 か所
- ・学校図書館(小学校)の週当たり開館回数の増加 4.2 回⇒5 回
- ・「読書が好き」な児童・生徒の割合⇒全国平均に
- ・昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書館・図書室や地域の図書館を利用しない児童・生徒の割合⇒全国平均に
- ・市立図書館から小・中学校への団体貸出
52,424 冊⇒60,000 冊以上
- ・市立図書館における 13 歳～19 歳の年度利用者数
18,962 人⇒22,000 人
- ・市立図書館における児童書の貸出冊数
2,703,476 冊⇒2,800,000 冊
- ・「ティーンズのページ」アクセス数の増加
6,346 件⇒10,000 件以上
- ・読書支援活動ボランティア数 2,433 人⇒2,500 人以上
- ・「子どもの読書活動推進連絡会」の開催
⇒大阪市、各区年 1 回以上開催